

みんなちがって みんないい



～ 知ってほしいな 自閉症スペクトラムのこと～

こんにちは。奈良 HA-HA-HA キャラバン隊です。私達は自閉症の子どもを育てる母親達です。外見からはなかなかわかりにくく誤解されやすい「自閉症」・「アスペルガー症候群」など「自閉症スペクトラム」とよばれる人達の事を知って頂きたくてこの活動を始めました。

脳の働きにユニークさがある自閉症の人たちの事を「自分の立場」に置き換えて考え理解する事は、なかなか難しい事です。しかし、たくさんの疑似体験を交える事で、少しでも多くの人と自閉症の人達との距離を縮める事ができたらいいなと思います。「困った人ではなく、困っている人だ」という理解があれば、そのユニークさも個性として、「共に安心して生きていける社会」に繋がると私たちは信じています。

『自閉症である事は特別な事ではありません。誰にでも得意な事と苦手なことがあるように、自閉症の人にも出来ることと出来ないことがあります。みんな一人一人違って当たり前なので

**奈良HAHAHAキャラバン隊 講演依頼先
募集中!!! 日程や 内容、
費用等は ご相談させていただきます。**



**保護者の団体、グループ
サービス事業所や施設様へ
幼稚園、学校など 何処へでも
ご依頼がありましたら
ご相談の上 お伺いします。**



問い合わせ先

FAX 0744-33-4755

asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp



～ 公 演 内 容 ～

自閉症って何？
見え方体験
聞こえ方体験
コインいれ体験
嬉しい接し方
ひび割れ壺
ぼくたちのせかい
母の気持ち
歌 etc...

***** 奈良HAHAHA隊メンバーは*****

全て自閉症の子供を育てている母たちです。

不思議な 笑える自閉っ子たちから 元気をもらった母より

***** 皆さまをきらきら星人の世界へご招待 *****

NPO 法人 奈良県自閉症協会 **奈良 HA-HA-HA キャラバン隊**



「みんなちがって みんないい」

知ってほしいな 自閉症・発達障がいのこと

- 1) はじめに
- 2) 自閉症・発達障がいって何？
- 3) 見え方体験
- 4) 聞こえ方体験
- 5) ちゃんとして！？ …… せんと家の人々
- 6) コイン入れ又は折り紙体験
- 7) 嬉しい接し方
- 8) ひび割れ壺
- 9) 僕たちの世界
- 10) 母の気持ち

お話・歌 『ひび割れ壺』 作者 不詳 訳 菅原 祐子
『ピリーブ』 ♪作詞・作曲 杉本 竜一

たとえば 君が傷ついて くじけそうになった時は
かならず僕がそばにいて 支えてあげるよ その肩を
世界中の希望のせて この地球はまわってる
今 未来の扉を開けた時は 悲しみや苦しみが
いつの日か 喜びに変わるだろう

I believe in future 信じてる



奈良 HA-HA-HA キャラバン隊

問い合わせ先


(E-Mail asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp)

じょうずにできたね！

ひとりでできたね～♪

がんばったね！！



すごいね♪



まる




どう接したらいい？

- 具体的に ○
- やさしく ○
- ゆっくり ○
- 短く ○
- はっきり ○
- ひとつずつ ○

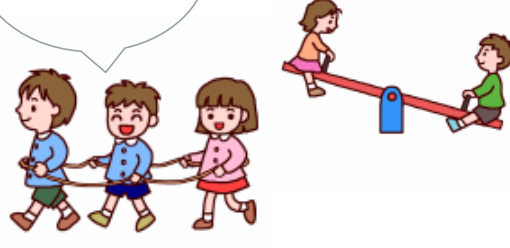
まる

太郎君
隣の音楽室で
楽器遊びしようよ。
鈴、もってきたかな？

まる

少しずつやり方を
教えてね




うれしい
接し方

見守る


できることは自分で

無理強いしない

ほめる



まる



安心して
できた!!という
経験を積める
環境が大切!



希望をください
勝手気ままに見るけれど
僕らいつも一生懸命
みんなと仲良くなれないけれど
僕らはとても人が好き
僕らのことを分かって下さい
お願いだから
僕らは信じていたのです
僕らにも
みんなと同じ未来があると

NAOKI

私たちはみな、それぞれユニークなひび割れをもっています。
 私たち一人一人がひび割れ壺なのです。
 私たちの仕事は、子どものひびを責めることではありません。
 自分のひびを責めることでもありません。
 子どものひびのために花の種をまくこと、それこそが親の仕事
 です。
 子ども達はどんな花を咲かせてくれるでしょう。
 そして、私たちはどんな花を咲かせるでしょう。
 (菅原裕子 著・「子どものこころのコーチング」より)

この地球にすんでいる僕の
仲間達へ
 ~12歳の僕が知っている自閉の世界~
 東田直樹

「自閉症の僕が 跳びはねる理由(わけ)」

はじめに

僕たちの障害

自分が障害を持っていることを、僕は小さい頃はわかりませんでした。
どうして 自分が障害者だと気づいたのでしょうか。
それは 僕たちは普通と違う所があってそれが困る、とみんなが言ったからです。
しかし、普通の人になることは、僕にはとても難しいことでした。

僕は、今でも、人と会話ができません。声を出して本を読んだり、歌ったりはできるのですが、人と話をしようとすると言葉が消えてしまうのです。
必死の思いで、1~2単語は口に出せることもあります。その言葉さえも、自分の思いとは逆の意味の場合も多いのです。
また、人に言われたことに対応できないし、精神的に不安定になるとすぐにその場所から走って逃げ出してしまうので、簡単な買い物さえも、1人ではできません。

なぜ、僕にできないの……
悔しくて悲しくて、どうしようもない毎日をおくりながら、
もし、みんなが僕と同じだったらどうだろう。と考えるようになりました。

自閉症を個性と思ってもらえたら、僕たちは、今よりずっと気持ちが楽になるでしょう。
みんなに迷惑をかけることもあるけれど、僕らも未来に向かって楽しく生きていきたいのです。

僕は、会話はできませんが、幸いにも、はぐくみ塾の鈴木さんとお母さんの訓練で、筆談というコミュニケーション方法を手にいれました。
そして、今では、パソコンで原稿も書けるようになりました。

でも、自閉症の子供の多くは、自分の気持ちを表現する手段を持たないのです。
ですから、ご両親でさえも、自分のお子さんが、何を考えているのかを全く分からないことも多いと聞いています。
自閉症の人の心の中を僕なりに説明することで
少しでもみんなの助けになる事ができれば僕は幸せです。

この本を読んで下されば、今よりきっと自閉症の人のことをあなたの身近な友達のひとりだと思っていただけるとと思います。
人は見かけだけでは分かりません。
中身を知れば その人ともっと仲良くなれると思います。
自閉症の世界はみんなから見れば謎だらけです。
少しだけ、僕の言葉に耳を傾けてくださいませんか。
そして 僕の世界を旅してください。

自閉症のついてどう思いますか？

僕は自閉症とはきっと、文明の支配を受けずに、自然のまま生まれてきた人たちなのだと思うのです。
これは僕の勝手な作り話ですが、人類は多くの命を殺し、地球を自分勝手に破壊してきました。
人類自身がそのことに危機を感じ、自閉症の人たちをつくり出したのではないのでしょうか。
僕たちは、人が持っている外見上のものは全てもっているにも関わらず
みんなとなにもかも違います。
まるで 太古の昔からタイムスリップしてきたような人間なんです。
僕たちが存在するおかげで、世の中の人が、この地球にとっての大切な何かを思い出してくれたら、
僕たちは何となく嬉しいのです。

東田 直樹

僕たちの世界

毎日の生活でわからない事がいっぱいあります。
心の中で思っている、言葉では言えないことがいっぱいあります。
いつでも、どんなところでも気になってしまうことがいっぱいあります。
ぼくの感じていることでわかってもらえないことがいっぱいあります。
(だから、嫌なことが毎日いっぱいあります)
あんまりわからないことばかりになると、逃げ出したくなります。
でも、ぼくは大体ガマンします。時々バクハツすることもあるけれど。

ぼくたちが出来る事

目で見えて確かめた事は、ちゃんと覚えます。
ちゃんと覚えた事は、間違いません。
ちゃんと覚えた事は、忘れません。
ちゃんと覚えたことは、あきずにできます。
嫌なことでも、自分で納得すれば、ガマンできます。
いつまで、どこまでが分かれば、その通りにできます。

ぼくたちが得意でないこと

いっぺんにたくさん覚えること
目で見えて確かめられないことを覚えること
物事のつながりを理解すること
イメージで考えること
いろいろなことを自分から言葉で説明すること
気になることがある時に、他の事をさせられること
納得できないようなことを、急にさせられること
困っているときに、誰かに助けを求めること

ぼくたちが嫌いなこと

ぼくの意見を聞かないで、ぼくのことを決めてしまうこと
ぼくに分かるまで説明しないで、僕のことを決めてしまうこと
ぼくがいやがっていることを、分かってくれないこと
ぼくが自分でできることを、勝手にやってしまうこと
ぼくに黙って、ぼくのことをみんなで話すこと
ぼくが何も出来ない、何も感じない、何も訴えない人間だと思われること

ぼくたちが一緒にいたいと思う人

ぼくが楽しいと感じる事を、ぼくと同じように楽しく感じしてくれる人
ぼくをひとりの人間として、尊重してくれる人
ぼくの障害をよく分かってくれて、普通の付き合いをしてくれる人
ぼくが本当に欲しい物を、ぼくに選ばせてくれる人
ぼくが嫌な思いをしている時に、ぼくの代わりにぼくの意見を言ってくれる人
ぼくが分からないことを、分かるように伝えてくれる人
ぼくが出来る事を、一つでも多く見つけ出してくれる人

笑顔**

福祉ホットライン

このコーナーでは、奈良を住みよいまちにするために日々活動する団体等を紹介しています。今回は、自閉症の子どもを育てる母親達で結成された「奈良HAHAHAキャラバン隊」を紹介します。



奈良HAHAHAキャラバン隊とは? ~知ってほしいな 自閉症・発達障がいのこと~

13名の母親達で構成された「奈良HAHAHAキャラバン隊」は、毎回4~5名のユニットを組んで奈良県内で公演活動を行なっています。これまで、学校での公演をはじめとして教職員研修や民生委員研修、万年青年クラブの定例会など奈良市内での実績も多く、約90分の公演では、話を聞くだけでなく障がいの疑似体験を多く盛り込み、「イヤーマフ」や「タイムタイマー」などの支援グッズの紹介・展示なども行なっています。

どの公演でも、周囲から障がいへの理解が得にくく、その言動などが誤解されやすい「自閉症」や「アスペルガー症候群」の人たちのことを「困った人ではなく、困っている人だ」との認識のもと、その人の出来ること、出来ないことを理解してもらえるよう公演内容が工夫されています。



《見え方体験》

ペットボトルの筒を通してみた画像が何かを当てるクイズ。自閉症の人たちの特殊な見え方や一部しか見えない限定的な視野を体験。



《聞こえ方体験》

4人のキャラバン隊が同時に話し、それぞれ異なる言葉を聞き取る体験。遠くや近くの音を聞き分けてフィルターをかける脳の働きが上手くいかない状態を説明。



《コイン入れ体験》

利き手ではない手に軍手を二重にはめて、指先でコインをつかみボールに入れる体験。周囲から制限時間をせかし立てることで、不器用な子どもたちの気持ちを体験。

メンバーへのインタビュー

- ・“母の気持ち”という公演メニューは、学校の先生からのリクエストが多いです。特に普通学級の先生が、保護者の気持ちを理解したいと興味を持たれることが多いようです。
- ・幼稚園などの公演では、障がいの有無に関係なく普段の子どもへの接し方の見直しになったという保護者の声が多く聞かれます。
- ・この公演を聞いて、自分の子どもの見方や接し方を変えてもらい、一番の味方になってもらえたらと思っています。
- ・もしキャラバンの活動がなければ、自分が子育てでへこたれていたと思います。今まで反応のなかった公演は一つもなく、逆に元気をもらってきました。自閉症の子どもたちが社会で生きていくための理解者をもっともっと増やしていきたいと思っています。

もっと詳しく
知りたいという方は
こちら

奈良 自閉症 きすな

日本自閉症協会

FAX:0744-33-4755
Mail:asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp



奈良HA-HA-HAキャラバン隊

みんな ちがって みんな いい

